

SRX600

1985年 / 市販車

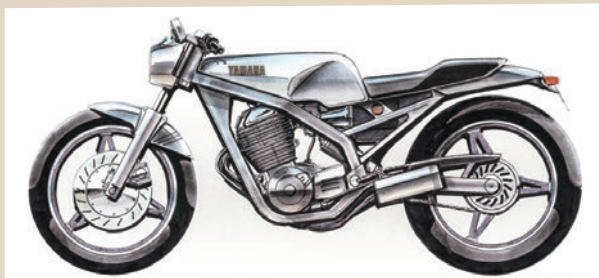
小型で高性能、日本製品の強みとも言える価値観が生み出した、1980年代のレーサーレプリカブーム。

この時代、高いパフォーマンスを発揮するモデル開発のみならず、製造技術の領域も大きな発展を遂げ、デザイン表現の自由度も大きく広げた。一方、バブル経済につながる社会の高揚感の中、過剰とも言える性能開発競争を招き、一部のエンスージアスト向けの製品が次つぎに世に送り出さることとなった。

このような背景の中、誰もが自由に乗りこなす喜びを味わえ、時間が経過しても、眺めたり磨いたりする悦びが深まるような趣味材の提案は、ある意味で、アンチテーゼとも捉えられる挑戦的な試みでもあった。

SR400のオーセンティックな佇まいに対し、時代に即した技術の進化を印象づける角型断面のスペースフレームと、機械の美しさを引き立てるメタルの素材感。さらに SRX のために一からデザインを起こしたタンクキャップ、メーター、フラッシャー、フレームの断面形状に至るまで、「魅せる機能美」を表現。

硬質で洗練された車体構成に対し、繊細で優美な造形を与えられた存在感のある燃料タンクも特筆すべき造形。等身大の走りの悦びと共に、メンテナンスの際にも沸き上がる所有感。大人の趣味材としての在り様を、ヤマハ流の美意識によって具現化した一台として、今でも多くのファンからヤマハを象徴する1台として挙げられる。



COMMUNICATION
P L A Z A